

## シンポジウム 2

### 法人が運営するキャリアサポートにアートを活かして

一般社団法人キャリアサポートクラブ理事長 特別支援教育士 SV/公認心理師

樋口 陽子 氏

#### 【ご略歴】

福岡教育大学肢体不自由教育教員養成課程を卒業後、福岡市、北九州市で公立学校教員として勤め、自閉症のコミュニケーションについて学ぶため、休職して福岡教育大学大学院研究科障害児教育専攻課程で学んだ。復職後、当時は全国的にも数少なかった特別支援教育コーディネーターの指名を受け、以後、17年間、大学との連携を生かし、特別支援学校のセンター的機能の充実を図り、北九州市全体の総括コーディネーターとして市内の特別支援教育の推進に携わった。

仕事と並行し、コミュニケーションや対人関係が苦手な子ども達とその保護者の活動の場である親子訓練ミツバチの会やおぞら会を運営し、平成26年度の法人化以降、11年間、彼らを含めた生きづらさや働きづらさを抱え、学校生活や就労に苦戦する子ども達や若者、保護者の不安や悩みに寄り添い、エンパワメントに取り組んでいる。その一環として令和元年より、アート活動を行っている。市内外の障害者芸術祭、美術展、作品展等において、多数の参加者が受賞している。その他、保護者同士のピアサポートも15年間行っている。

資格) 公認心理師、臨床発達心理士、特別支援教育士 SV

現在、乳幼児育成指導巡回相談員、大学非常勤講師、商工会議所相談員等も行っている。

#### 【報告内容】

最初に、キャリアサポートクラブの特徴である学校や公的機関、福祉サービスではカバーできないすき間を埋めて、幼児から小中高大学、社会人へと、継続した関わりについて紹介します。次に、活動の柱であるアセスメントからニーズに合わせた教育支援や、社会体験活動、自己理解を深める活動を紹介します。アートは、絵やものを作ることで、自分を表現することができ、作品を通して見る人と会話することができます。参加者を募集して、講師の先生に来ていただき、月1回程度行っているアート活動の様子や作品をモチーフに紙製品や布製品を作り販売することで、市民の方と作品を通じた交流を行っている報告をします。最後に、学習の困難さを主訴に来所した中学生に対し、学校・医療機関と連携してアセスメントに基づく個別の支援に3年間取り組む中で、絵を描くことを通じて自信が芽生え、周囲の評価を得て、高校でも活躍している事例を報告します。